

1 題材の目標及び題材構想

「幼児の成長と家族」(12時間完了)

(1) 題材の目標

- ① 自分や幼児の成長に関心をもち、家族とのかかわりについて意欲的に考えることができる。(関心・意欲・態度)
- ② 幼児と家族のかかわりを考えることで、家族の役割を見直し、よりよい家族関係を築くための工夫をすることができる。(工夫・創造)
- ③ 幼児の発達段階に応じた接し方をすることができる。(技能)
- ④ 幼児の成長過程や家族とのかかわりについて基礎的な内容を理解することができる。(知識・理解)

(2) 題材構想

| 齎 | 各過程のねらい | 生徒の学び | 教師の支援及び評価(☆) |
|----|---|---|---|
| 発見 | ○自分の誕生や成長を振り返り、助産師の話を参考に、家族や多くの人々に支えられてきたことに気付く。 | 幼いころを振り返ろう1 ・子供を産み、育てるには父親の協力も必要だ。 ・自分を産む時もこんなに大変だったのか、母親に聞いてみたい。 | ・代表生徒に誕生の様子を発表させたのち、助産師から専門的な視点で話をしてもらうことにより、関心を高める。 ☆多くの人に支えられて成長できたことに気付くことができたか。(観察、プリント) |
| 確認 | ○幼児の体の発達の特徴や生理機能の特徴を理解する。 | 幼児の身体の発達の特徴を知ろう2 ・汗をたくさんかくので、水分が必要だ。 ・幼児にとって、1年間の成長はとても大きい。 | ・幼児服などを見せることで、幼児の体の特徴を実感させる。 ☆幼児の身体的・生理的特徴について理解することができたか。(プリント) |
| | ○幼児の運動機能の発達について特徴を理解する。 | 幼児の運動機能の発達の特徴を知ろう3 ・年齢差による運動機能の違いは大きい。 ・同じ年齢でも運動機能の個人差がある。 | ・ビデオや幼児が描いた絵を見せることで、運動機能の発達について理解を深める。 ☆運動機能の発達の特徴を理解することができたか。(プリント) |
| | ○幼児の心の発達について特徴を理解する。 | 幼児の心の発達の特徴を知ろう4 ・社会性の発達には家族や友達が大きくかかわっている。 | ・情緒の発達について考えさせるために、幼児のいろいろな表情の写真を見せる。 ☆心の発達には周囲の人とのかかわりが大切であることに気付くことができたか。(プリント) |
| | ○生活習慣の必要性を理解し、幼児へのかかわり方を考える。 | 生活習慣について考えよう5 ・何回も失敗を繰り返しながらできるようになる。 ・しかるよりも褒めた方が身に付きやすい。 | ・ロールプレイングを通して、内容や話し方を工夫させる。 ☆幼児の発達段階に適した接し方を考えることができたか。(観察、ロールプレイング) |
| | ○遊びの意義について考え、おもちゃの役割を理解する。 | 幼児の生活と遊びを知ろう6 ・幼児にとって遊びは、運動機能や心が発達するから大切だ。 | ・実物を見せることでおもちゃの役割を理解させる。 ☆遊びの重要性及びおもちゃの役割を理解することができたか。(プリント) |
| 追究 | ○幼児の視点で室内環境を整える。 ○今までの学習を基に、子育てについての質問をまとめる。 | 幼児を迎える準備をしよう7 ・危ないところには近付けないようにしましょう。 ・子供が生まれて、家族にどのような変化があったのだろうか。 | ・子育てについての質問を深めるための具体例を示す。 ☆質問を考えることができたか。(プリント) |
| | ○発達段階に適した遊び方やおもちゃを工夫する。 | 発達段階に適したおもちゃを作ろう8～9 ・口に入らない大きさで角を丸くして安全にしよう。 ・幼児が喜ぶように、色や絵を工夫しよう。 | ・既製品のおもちゃを見せることで、発達段階を考えたおもちゃの大きさや内容を工夫させる。 ☆発達段階に適したおもちゃを作ることができたか。(作品) |
| | ○幼児と触れ合い、理解を深める。 ○保護者から子育ての話を聞き、子供に対する家族の気持ちを理解する。 | 幼児と遊ぼう10 ・年齢によって遊び方が違う。 ・自分が作ったおもちゃを喜んでくれてうれしい。 ・お母さんは子供のことを話す時、とてもうれしそうだな。 | ・幼児への接し方で戸惑っている生徒には、声を掛けて一緒に触れ合わせる。 ・保護者への質問が更に深まるように、補足の質問を考えさせる。 ☆幼児と上手に触れ合えたか。家族の気持ちを理解することができたか。(観察、プリント) |
| 拡大 | ○前回の授業を基に幼児にとっての家族の役割を考える。また、家族にとっての幼児の役割を考える。 | 幼児と家族のかかわりを考えよう11 ・同じ兄弟でも発達段階や個性により接し方が違う。 ・家族は子供のことを第一に考えている。 ・幼児は何もできなくても、そこにいるだけで家族を幸せにできる存在である。 | ・幼児とかかわる保護者の表情を思い出させることにより、幼児は家族にとって幸せを与える大切な存在であることに気付かせる。 ☆幼児と家族はお互いに大切な存在であることに気付くことができたか。(プリント) |
| | ○自分にとっての家族の存在意義を考え、家族間のよりよい人間関係について考える。 | よりよい家族関係を考えよう12 ・家族は自分にとってかけがえのない存在である。 ・今まで大切に育ててもらって感謝したい。 ・うるさい時もあるけど、自分のことを考えてくれている。 ・感謝の気持ちを込めて手紙を書く。 | ・親の気持ちを知るために手紙を読ませ、自分の気持ちを素直に伝えさせるために返事を書かせる。 ☆日ごろの自分の生活を振り返り、これからどのように家族と接していったらよいか考えることができたか。(観察、プリント) |